

## 様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 12 月 15 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究 (A)

研究期間：2006～2009

課題番号：基盤研究(A)18251014

研究課題名 (和文) アフリカ熱帯森林帯における先住民社会の周縁化に関する比較研究

研究課題名 (英文) Comparative Study on Marginalization among Indigenous People in Tropical Forest Zones of Africa

研究代表者

竹内 潔 (TAKEUCHI KIYOSHI)

富山大学・人文学部・准教授

研究者番号：40212021

研究成果の概要 (和文)：アフリカの狩猟採集民と狩猟農耕民の社会文化的周縁化の現況について現地調査を実施した。狩猟採集民・狩猟農耕民は、集権的な社会組織を持っていないために、商業伐採や森林保護活動などの圧力に対抗する自律的な抵抗を確立できないでいる。外圧に対応するための大規模集落の形成や社会的結束強化の儀礼催行が見られる一方で、人権 NGO の影響を受けて先住民運動も芽生えているが、両者が結びついていないために、双方とも実践の効果は限定的であることが明らかとなった。

研究成果の概要 (英文)：The field surveys on marginalization among hunter-gatherers and hunter-horticulturalists were conducted. Hunter-gatherers and hunter-horticulturalists have not been able to establish the independent resistance to impacts such as commercial logging or forest conservation activities because their societies lack political centralization. Whereas formation of large-scale settlements and ritual for enhancement of social cohesion against external pressures were observed, indigenous movements are arising from the influence of human rights NGOs. However, both activities work limitedly in consequence of the absence of junction among them.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	5,100	1,530	6,630
2007 年度	5,800	1,740	7,540
2008 年度	5,800	1,740	7,540
2009 年度	5,900	1,770	7,670
年度			
総計	22,600	6,780	29,380

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：周縁化、先住民、アフリカ、熱帯森林

1. 研究開始当初の背景  
外部からの大規模な圧力を蒙ることが少なく、地域の他民族集団との相互依存的な関係

の枠組みのなかでゆるやかに変化してきた中央アフリカ熱帯森林帯の「ピグミー」系狩猟採集民などの先住民社会は、1990 年代以

降、急激な変容を強いられるようになった。本研究に先立つ科学研究費補助金による研究（「アフリカ熱帯森林住民の文化保全と内発的發展に関する研究」及び「アフリカ熱帯森林帯における民族的アイデンティティの再編成に関する人類学的研究」）によって、内戦や紛争、商業伐採、自然保護活動などの外部からの様々インパクトを受けて、狩猟採集民が地域と国家の枠組みの双方に置いて、社会的下層に位置づけられつつある状況が明らかになりつつあった。

北米、オーストラリア、東南アジアの狩猟採集社会については、国家や地域における周縁化や「先住民」の表象を用いた抵抗実践の様相に関する精密な研究がすでに蓄積されていたのに対して、アフリカ熱帯森林の狩猟採集社会の周縁化現象についての人類学的研究は、イギリスの研究者がいくつかの民族集団を対象とした論考を発表して先鞭をつけてはいたが、まだ網羅的な調査研究はこなわれていなかった。

## 2. 研究の目的

中央アフリカの熱帯森林帯に居住する狩猟採集民の「周縁化」に大きく分けて、2つの側面がある。

一つは、中央アフリカ諸国の国家政治の文脈において、かつては政治的関心の域外にあった「辺境」の狩猟採集民が、望ましい「国民」像の対極として、納税などの一切の社会的責任から逃れている「未開」な「遊動民」としてモデル化されつつあるという状況である。家産的権力の色合いが濃く、ガバナンスが脆弱な多くのアフリカ国家にとって、政治的凝集力のないピグミー系狩猟採集民などの先住民が、開発や自然保護施策を通して「国民化」をはかる格好の操作対象として浮上してきたのである。

次に、地域社会のレベルでは、急速な商業経済の浸透や外部からの人口流入、政府による定住政策などによって、狩猟採集民にとって外部からのインパクトに対するバッファーであった近隣に居住する農耕民との「相互疎隔を通じた相互依存」の関係枠組みが崩壊し、社会的軋轢や土地利用を焦点にして、地域外から流入してきた農耕民や伐採労働者、あるいは内戦状況下の民兵などの利害が狩猟採集民に直接かつ苛烈に押しつけられるようになっていく。

狩猟採集社会の周縁化には、このように二つの側面があると考えられるが、国や地域によって、周縁化と周縁化への狩猟採集民の対応の状況は異なる。本研究では、狩猟採集民の社会、生業、言語、儀礼、土地利用の諸側面の現況についてそれぞれの分野の研究者がアフリカ熱帯森林帯の諸地域で継続的に現地調査を実施し、さらにアフリカの他地域

の少数民族社会についても調査をおこなって、収集した諸事例を比較考察することを企図した。このような作業によって、本研究では、アフリカ熱帯森林帯の狩猟採集社会が直面している社会文化的周縁化状況を総合的に把握するとともに、周縁化に対する狩猟採集民の「抵抗」実践の状況についても明らかにして、「先住民」研究に新たな知見と視角をもたらすことを目的とした。

## 3. 研究の方法

アフリカ熱帯森林の先住民である「ピグミー」系の民族集団は、中部アフリカ帯に散在している。本研究では、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、ガボン共和国、ウガンダ共和国、ルワンダ共和国の5カ国に居住する民族集団（アカ人、バカ人、ムブティ人、ボンゴ人、トゥワ人）を対象として現地調査を実施し、収集した資料を比較検討して、それぞれの集団の社会文化的状況と外部との関係性について、共通性と特殊性を分析しながら、「ピグミー」系狩猟採集社会の社会文化的周縁化に関わるファクターを抽出するという方法をとった。ただし、コンゴ民主共和国は内戦によって治安が悪化していたので、ニュースや文献資料の分析によって研究を実施した。

さらに、東アフリカのタンザニア共和国に居住するハッサ人、南アフリカのボツワナ共和国のサン人などの少数民族社会についても現地調査を実施して、中央アフリカ諸国の現地調査で得られた事例との比較考察をおこなった。

現地調査は、1)生業活動の現況と近隣農耕民、移住者、公園管理者、伐採会社、人権NGOなどとの社会文化的関係（竹内、池谷、丹野、松浦、大石）、2)混住や定住政策、他集団からの政治的圧迫が言語文化に与えている影響（梶）、3)外部からのインパクトが儀礼文化に与えている影響（都留、山口）、4)土地利用をめぐる狩猟採集民と農耕民、移住者、政府との関係（雨宮、赤阪）、5)国家体制・内戦と狩猟採集民の関係（澤田、武内）の5つの分析軸に沿って実施した。中央アフリカ共和国のアカ人の周縁化状況については、**Barry Hewlett** 及び **Bonnie Hewlett**（ワシントン州立大学）から、カメルーン共和国のバカ人については **Sinang**（ヤウンデ第1大学）から、それぞれ知見の提供を受けた。

## 4. 研究成果

中央アフリカの熱帯森林帯の狩猟採集民・狩猟農耕民（アカ人、バカ人、ムブティ人、ボンゴ人）や東・南アフリカの狩猟採集民（トゥワ人、ハッサ人、サン人）などの先住民の社会経済的周縁化について、以下の知見が得られた。

(1)アフリカの狩猟採集民・狩猟農耕民は、集権的な社会組織や文化、排他的土地利用の観念を持っていないために、商業経済の流入や経済的混乱、内乱・紛争による政治社会的混乱、政府の定住化政策などの外部からの圧力に対して自律的に抗する強固な社会的基盤を形成することができず、国家と地域の双方において社会的最下層に位置づけられてジェノサイドや差別の対象となり、民族的アイデンティティ喪失の危機に直面している。

(2)中央アフリカの熱帯森林帯に居住する狩猟採集民・狩猟農耕民の一部は、大規模集落の形成、儀礼催行の強化、動植物や伝統医療の知識を基盤とした新たなアイデンティティ構築などを外部からの圧力に対する抵抗実践としておこなっているが、地域の枠組みを越えた政治経済システムに包摂されつつあるために、実践の効果は限定的であり、国家におけるマイノリティ化や不安定な社会的状況から脱却することが困難となっている。

(3)東アフリカや南アフリカの狩猟採集民の一部は、定住化などの政府の政策や土地利用を巡る農耕民からの圧迫に対して、人権NGOの介入と影響によって「先住民」の表象を用いて抵抗を展開し、狩猟採集民側の政治的態度の分化など複雑な政治的状況が生起している。中央アフリカにおいても人権NGOが狩猟採集民の地位向上のための活動を始めているが、東アフリカや南アフリカの諸国家と比較して中央アフリカ諸国のガバナンスは脆弱であり、政治経済状況も不安定なために対抗軸が不明瞭であり、また、人権NGOの活動が(2)に記した狩猟採集民自身の抵抗実践と結びついていないため、狩猟採集民による自律的な政治的運動はほとんど生じていない。

以上の知見については、「5. 主な発表論文等」に代表される論考をはじめとして、研究メンバー各自が論文や著書等で発表しているが、研究代表者（竹内）が編者の一人となる『アフリカの平和力』（平成24年度刊行予定）においても成果の一端を掲載する。

また、平成21年8月に海外研究協力者である Barry Hewlett と Bonnie Hewlett を招いて『アフリカ熱帯森林帯の狩猟採集社会の周縁化についてのワークショップ』を京都で開催し、平成22年9月には研究代表者（竹内）と Barry Hewlett 及びフランス人研究者が組織委員となって、フランスのモンペリエにおいて“International Conference on Congo Basin Hunter-Gatherers”を開催して、竹内、松浦、大石と海外研究協力者の Sinang などの研究メンバーが発表をおこなった。これらの国際集会において、本研究の成果を海外の研究者に発信して、アフリカ熱帯森林の狩猟採集社会の現況について新た

な知見を加えることができた。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計25件）

1. 雨宮洋美、2011、「土地の権利とマイノリティータンザニアの事例にもとづく考察」、『マイノリティという視角 関西大学マイノリティ研究センター中間報告書上』, pp.89-107. 査読無し.
2. 竹内潔、2011、「“豊穡の森”と“稀少の森”ー森林の開発と保護をめぐるー」、『環境科学総合研究所年報 2010』, pp.12-22. 査読有り.
3. 梶茂樹、2009, "Tone and syntax in Rutooro, a toneless Bantu language of Western Uganda", *Language Sciences* 31(2-3), pp.239-247. 査読有り.
4. 武内進一、2008、「ルワンダのジェノサイドを引き起こしたものー歴史・国際関係・国家」、『季刊 戦争責任研究』59. pp. 11-17. 査読無し.
5. 池谷和信、2006、「ボツワナの自然保護区とカラハリ先住民をめぐる政治生態学」、『アフリカ研究』69, pp. 101-112. 査読有り.

〔学会発表〕（計21件）

1. Takeuchi, K. 2010.9.23. "Transition of Social Relationship between Aka Foragers and Neighboring Farmers in Northeastern Region of the Republic of Congo for past 20 years", International Conference on Congo Basin Hunter-Gatherers, フランス、モンペリエ市・フランス国立科学研究センター (CNRS) モンペリエ支部
2. Takeuchi, K. 2009.8.3. "From 'Community through Exclusion' to 'Marginalized and Fragmented Community': The Aka Forest Foragers Society in the Republic of the Congo", Workshop on Central African Hunter-Gatherer Marginalization, 京都市・京大会館
3. Amemiya, H. 2008.5.31. "Formalization of Customary Land Rights and Development Issues in Africa : The Case of Tanzania's Village land Act, 1999" Joint Annual Meeting of Law and Society and Canadian Law and Society Association. カナダ、モントリオール市ヒルトンホテル

4. 池谷和信、2007.6.2. 「自然保護区と狩猟採集民－カラハリ先住民の新たな生業」、日本文化人類学会. 名古屋市・名古屋大学
5. 武内進一、2007.10.26. 「アフリカの紛争とエスニック・ネットワーク－コンゴ内戦とルワンダ系住民の役割」、日本国際政治学会. 福岡市・福岡国際会議場

[図書] (計7件)

1. 池谷和信、佐藤廉也、武内進一編、2008、朝倉書店、『朝倉世界地理講座－大地と人間の物語 第12巻 アフリカⅡ』、445p.
2. 池谷和信 (共著)、2008、明石書店、(綾部恒雄、福井勝義、宮脇幸生、竹沢尚一郎編)『講座 世界の先住民－ファースト・ピープルズの現在－サハラ以南アフリカ』、pp.269-284.

[その他]

ホームページ等

<http://www.ktak.jp/kaken.html>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

竹内 潔 (TAKEUCHI KIYOSHI)

富山大学人文学部・准教授

研究者番号：40212021

### (2)研究分担者

丹野 正 (TANNO TADASHI)

弘前大学・地域社会研究科・教授

研究者番号：30092266

梶 茂樹 (KAJI SHIGEKI)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：10134751

池谷 和信 (IKEYA KAZUNOBU)

国立民族学博物館・民族社会研究部・教授

研究者番号：10211723

澤田 昌人 (SAWADA MASATO)

京都精華大学・人文学部・教授

研究者番号：30211949

雨宮 洋美 (AMEMIYA HIROMI)

富山大学・経済学部・准教授

研究者番号：90401794

武内 進一 (TAKEUCHI SHINICHI)

アジア経済研究所・地域研究センター・主任研究員

研究者番号：60450459

都留 泰作 (TSURU DAISAKU)

富山大学・人文学部・准教授

研究者番号：10345548

### (3)連携研究者

なし

### (4)研究協力者

Barry Hewlett

ワシントン州立大学・教授

Bonnie Hewlett

ワシントン州立大学・講師

Joseph Jules Sinang

ヤウンデ第1大学・歴史学部・研究員

赤坂 賢 (AKASAKA MASARU)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：60099231

松浦 直毅 (MATSUURA NAOKI)

京都大学・理学研究科・研究員

大石 高典 (OISHI TAKANORI)

京都大学・こころの未来研究センター・特定研究員

山口 亮太 (YAMAGUCHI RYOTA)

金沢大学・人間社会環境研究科・博士前期

課程院生